

午後2時20分再開

○議長（浅尾静二君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番中島秀樹議員の質問を許可します。10番中島秀樹議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君） ただいま質問の許可をいただきました10番議員の中島秀樹です。

私できょうの質問はあと2人になります。新庁舎と財政見通しについてきょうは質問しようと思ってるんですが、新庁舎、財政の見通しにつきましては活発な議論が1日目に行われまして、新庁舎、財政のことにつきましては、既に4名の議員の方が議論を交わしてあります。

間違いやすい使われ方の言葉に「煮詰まる」という言葉がございます。正しい意味は、討議、検討が十分になされて結論が出る段階に近づいてるという意味です。まさにこの問題は煮詰まっているのではないかというふうに思っております。間違った使い方に議論が煮詰まっているとあって、いい知恵が出ないという使い方が間違った使い方です。私は既にこの状態でございます。不安でいっぱいです。しかし、何とか頑張って質問続けていきたいと思っております。もっと早くじを引いとけばよかったなと思っております。次回は1番くじを引くように頑張りたいと思っております。

あとは質問席より質問させていただきます。

（10番中島秀樹君降壇）

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） では、通告の順番をちょっと変えて質問させていただきたいと思っております。

まず1番目に財政の見通しについて、2番目に新庁舎建設について、そして3番目に公共交通による地域再生についてを質問をさせていただきます。

まず、私は本が好きでよく本を読みます。雑誌もたくさん読みます。その中で、最近よく目にする言葉、気になる言葉がございます。それは先ほどの大庭議員からも言葉が出てきたんですけども、「下流老人」という言葉です。川の上流、下流の下流、それに老人がついて下流老人という言葉です。どういった意味なんだろうかと思って調べてみますと、定義はいろいろあるんでしょうけれども、収入が著しく少ない、それから十分な貯蓄がない、そして頼れる人間がいないと、そういった人たちを下流老人と呼ぶそうです。

私の世代はバブルも経験いたしましたし、そこそこ給料もいただけたのかなというふうに思っております。ただし、私よりも下の世代は悟り世代とかいって給料がもともと右肩下がりの時代の世代の方もいらっしゃると思いますので、そんなに給料が多くもらえていない、そして当然貯蓄も余りできてないような人たちが私よりも下の世代だと思います。

ちょうど私はことし53になるんですけど、私の世代が境目になるそうです。何の境目になるかといいますと、世代会計といいまして、個人が一生の間に国に払う税金や社会保険

料といった負担額と、国から将来受け取る年金や医療保険、補助金の給付といった受益額との差額を世代別に算出したものだそうです。それを現在価値に割り戻して比較をしますが、私の年代ではとんとんらしいです。当然先輩方、私よりも上の方は受益のほうが多い世代です。そして私よりも下の世代は負担が大きい世代になるそうです。

でも、何となく感覚的にはそうだろうなという感じがします。これだけ厳しい雇用環境、非正規の社員の問題、そういった中で貯蓄は多分十分にできてないだろうな、そしてこれからもそんなに給料は若い人たちは上がっていかないだろうな、そんなことを思います。そしたら若い人たちはやはり自己防衛をしとかなないと厳しいんじゃないかなと、そういったことを思います。ただ、これは個人の責任なんだろうかとも思います。ちょっと済みません、おしゃべりが過ぎましたけども、この下流老人という言葉が今、世間を騒がしてると言ったら変なんですけど、あちらこちらで見えるようになりました。

そういった中で、お年寄りと言ったら、私のイメージだったら悠々自適に旅行にたくさん行ってるとか、そういうイメージだったんですけども、今、平均年齢が80ぐらいですけども、人類はもうすぐがんを克服するというふうに言われています。そして若返りの薬も何か動物実験ではできたとかいうような話も聞いたことがございます。そういった中で当然長生きをするわけです。ひょっとしたら私が80ぐらいになったときは、平均年齢がもっと上がってるかもしれない、90とか100近くまでなってるかもしれない。そしたら当然長く生きます。それなのにもらってるお金は少ないとか、それだけもらって長く生きるわけですから、当然お金がかかるというのは誰でもわかるような時代だというふうに思っております。そういった意味では、私はやはり長期的に物事を考えてやっていかないといけないのかなと、そういうふうに思っております。

では済みません、まず一番最初の質問でございます。財政見通し、資料でいただきました。朝倉市財政の見通し、平成26年度から平成36年度、これをいただきました。この見通しはどうしてつくっているのか、そもそも、それをお尋ねしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 以前はこういうものは出しておりませんでした。これは私どもが予算を執行していく上で、ことしの決算、来年の予算、それぐらいまでは予算書、決算書でわかるわけでございますが、やはり今の時代、大きな借金といいますか、起債を借り入れて財政運営をするのが基本になっておまして、10年先の財政がやはり健全でないと、今の事業をどう選択できるかということを見るために、そういう10年先がわかるような資料という形でつくり始めたものでございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 長期的なものを考えるため、短期的な財政でなく、そういったふうに私はとりました。

私自身も先ほど53になったと言っておりますけど、私なりに人生の設計を立てておりま

す。10年後にはこういうふうになって、20年後にはこういうふうになって、30年後にはこういうふうになりたいなど。それはもちろんそのとおりにはないんですけども、長期的にこれくらいは長生きしたいとか、そういったことを考えるということは決して無駄ではないというふうに思っております。長期的なビジョンを持つ、長期的な計画を立てる、こういったことは無駄ではないというふうに思っております。

ですから、この財政の見通しという数字がいっぱい並んだ、こういった紙なんですけれども、この一年一年が合ってるとか合っていないとか、それから、例えば10年後にこれを取り出してきて、全然これと違ってるじゃないとか、そういったことというのは全く私は意味がないのかなと思っております。

ただ、私がこの見通しを見まして気になる点が1点ございます。それは、これはいろいろな考え方のパターンによって2パターンあるんですけども、平成32年度から財政の基調が約3億円程度ずつずっと赤字になってるということです。これは私はこの数字を読み取りますと、やはり赤字の基調というんですかね、基づく調子の調、基調です、赤字の基調なのかなと、朝倉市は。傾向として赤字がこれからふえてくる傾向なのかなと、そういうふう感じております。

そうしましたらば、この赤字の基調ですというのを私は読み取りました。ですから、私は赤字だから気をつけなさいよと、そういう警鐘を鳴らす意味で私たちに下さったのかなと、つくられたのかなと、そういうふう考えたんですが、それはいかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） この資料をつくる場合は、どうしても10年先、楽観的なつくり方はやりません、歳入を控え目にしまして、歳出はできるだけつくったときに想定できるものをしておりますので、どうしても辛目な数字が出てきておまして、議員が言われますように、将来的がこれが黒字等になれば、こんなに楽なんだ、もっといろいろできるんじゃないか、そういう考え方を持たれる方もあるかもしれません。私どもとしてはできるだけ財政は厳しいんですよという形をお知らせしながらしていこうとは思っております。

ただ、3億円が多いのか少ないかというのはいろんな議論があろうと思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 私は辛目の分で、当然何か非常にバラ色の計画書を見せられて浮かれているよりは、やはり厳しいものを見せていただいたほうが身が引き締まるといいですか、そちらのほうがいいのかなというふうに思っております。

そういった中で、私は先ほどの下流老人の話、これは非常にどっかのテレビ通販みたいに、おどかしで心理学を利用するような、そういうつもりで決して申し上げるわけではないんですけども、これから朝倉市はいろんなことが不測の事態がいろいろ起きるんじゃないかなというふうに思っております。まず私が考えておりますのが、長生きをしますので、当然認知症の方がふえるんじゃないかなというふうに思っております。私も認知症に

はなりたくないなど、気をつけときたいなどというふうに思っております。ただ、悲しいかな認知症は本人は気づかないです。本人が自分は認知症だとわかってれば、それはまだ認知症ではないというふうに思っております。ですから、誰でも認知症になるような時代じゃないかなと思っております。そうすると、そういった部分にでもお金がたくさん要るんじゃないでしょうか。

そして、核家族化が進んでおります。これはちょっと資料からなんですけれども、平成26年度の高齢者社会白書、これ内閣府が出してる分ですが、65歳の以上のひとり暮らしの高齢者数というのがございます。昭和55年、1980年、今から35年ほど前だったんですが、それが約、男が19万人、それが平成22年、30年後、それには先ほどは19万人が139万人、約10倍です。女性は69万人だったのが341万人、これは5倍ほどですかね、にふえております。そして、子供と同居してる同居率は、昭和55年では70%ほどあったのが、平成24年では24%ほどだそうです。

ですから、私ももし下流老人になったら、子供を頼るといのは何ですかね、核家族化の申し子だからでしょうか、助けてくれと言って子供のお世話になるのは気が引けます。それと同時に、子供のところに行ったら親子共倒れになるリスクも高くなるそうです。そういった意味で、備えというのはやっぱりしとかなないといけないのかなと、そういった気がしております。そういった意味で、社会保障のほうに今では考えられないような、とんでもないようなお金が必要になってくるのではないかと、そういうふうに思っております。

そしてまた済みません、話を戻します。そういった中で、では32年から赤字基調でありまして、当然これは辛目の基調です。ですけれども32年から赤字基調になる。そしたら大型事業が幾つか入ってますよね、大丈夫ですかと、そういうふうに思っております。そのところは赤字基調と大型事業、これは整合性がとれないような気がするんですがいかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） これは金曜日の一般質問でもお答えしましたけど、将来、収支が歳出のほうを上回りますという形でお話し申し上げました。これは前回は申し上げましたように、いろんな事業、今まで行ってきました。これからも行っていきます。そのために合併特例債という有利な起債を使っていきますために公債費が非常にその歳出側に上乗せされていきます。それを防止するために、赤字を防ぐために減債基金という形を今まで積み立ててきました。合併特例債をすることによりまして、一般財源が過去に浮いたと申しますか、貯金として回せるものがございました。そういう形で財政を運営をしていこうという想定された不足分でございますので、10年間につきましては、この減債基金がまだ13億円、14億円ございますから、それで十分大丈夫だというふうに理解してるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 私は前職が銀行員なものですから、数字というのは意味があると思いますか、書きようによっては数字を操作できるというふうに考えてるほうなんです。自分が担当でこの企業は伸びると、この企業には融資をしても大丈夫だと、この企業のためになるんだと言ったら、もちろんでたらめはいけませんけれども、ある程度許せる範囲内で数字をいのような、黒字にするとか、将来予想というのは当然立てますので、黒字にするとか、そういったことをやって、この企業はいいんです、いけるんですと、私はこの企業のために融資がしたいんですと、そういうふうにして書類を書いてまいりました。

しかし、この財政の見通しを見てますと、赤字基調をそのまま正直に軽く出してあるから、私は担当課としてやりたくないのかなと、何で黒字で出さないのかなと、そういうふうに思うんですけれども、そこのところはなぜ、だってこういうのを出したら、心配するのは容易に想像できますよね。だけれども、何でこのまま赤字基調で出してるのか、それをお尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） まず隠そうという気はなかったというのがまず第1点でございます。正直に数字を積み上げたということでございます。

それにもともと先ほども申し上げましたように、合併特例債を多用すれば将来的には負担はふえるんですよということをしておりまして、さらにそうした上で黒字になるというのは、ちょっとあり得ないという私は思っております。本当の気持ちは隠したくないということを出したのが1番でございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 何ですかね、正直が一番の策といいますか、本当に誠実な書類を出していただいて、それは本当にありがたいというふうに思っております。

ただ、このままいきますと基金であり、そういったものがずっと赤字が続いていきますので、もちろん36年度より先のことは書かれてませんけれども、この基調でいくと多分なくなるだろうなど。これは実藤議員も同じような質問をなさってありましたけれども、あえてもう1度、お尋ねします。それだといつかは基金がなくなって、お手上げの状態になるんじゃないかと、そういうふうに思うんですがいかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） このままいけば、先ほど言いました10年間はもちます、確かにもちます。じゃあ11年目、12年目、20年後はどうなるかといいますと、それは破綻するだろうと思います、このままでいけば。

ただ、11年先の試算を今、出しておりませんので、実際3億円がずっと続くかどうかは今、明言できないとございまして、この表を見ることによりまして議員の方、それから私ども執行部、市長も含めてでございますが、そういう厳しいんですよという認識をまず持つというのは、まず第一だと思っております。そして、今のまま何もしなければこのまま

になります。ですから、対策をいろんな考え方はこれを見ながらして、行って行って、3億円の赤字幅を少なくしていくという努力をするという、そういう認識を持つためでもございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） そしたら、では当然このままでいくとだめですから、ではどうするという話には私はなると思うんです。長期的な計画を立てる、見通しを立てるということは、経営資源を効率的に分配をしていくとか、それとか将来のあるべき姿、朝倉市はこうあるべきだというそういった施策の明確化をしていかないといけないと思ってるんです。私は先ほど言いましたように、認知症の人がふえたりとか、あと、空き家のことも気になっております。今、全国で13.5%、約15%ぐらいの空き家があるそうですので、朝倉市もこれから空き家が多分、広い朝倉市ですからふえていくのではないかなというふうに思っております。

そういった中で、ではこれから、この基調を変えるために何かやっていないといけない、どうするの部分が必要なんです、その部分はどのようにお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 特効薬はまずございません。朝倉市においては今、地方創生の戦略をつくっております、これは全国的にしておりますが、こういう中でいろんな計画、空き家問題、CCRC、それから子育てに対しての支援とか、いろんなことをさまざましまして、人口増をいかに図っていくのかが一番の命題だろうと思います。そして元気な方、お年寄りとかでも元気な高齢者を呼び込んで、いろんな収入アップ、歳出の抑制を行っていくという形で健全な財政、言葉で言うのは本当に、そういう一般的な幾らでも言えますけど、なかなか現実には難しいものとは認識しておるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 確かに特効薬はないというのはわかります。ただ、部長、今おっしゃられたのは、方向性は確かにわかっているけれども、具体的な施策というのが希薄じゃないですかね。それだと今、はやりのといいですか、説明責任を果たしてないんじゃないですかね。もう少し具体的なもの、そういったものを出していくべきじゃないでしょうかね。

副市長、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） まず財政の見通し、見込みを出させていただきました。これは中島議員、銀行員でいろんな融資するとき、ただ、明らかに一般の企業と行政と違うところ、もう御存じだと思いますけれども、企業の場合は利益を出すということなんです。ただ、行政の場合はただ努力したからで利益がぼんと出るものじゃないんです。ですから、なかなかそこらあたりで難しい問題があります。

それともう1つ、財政の見通しというのは、私は県会議員時代、県のほうで議会にそういうような出たことないんで、朝倉市議会に来てびっくりしました、正直言って。それはもうそれでいいんです、それはそれでいいんですけれども、基本的には私どもの捉え方としては、自分たちがこれから財政運営やっていく、今から実際やっていく上で、このまま何もしなくてこうやったらこのころ、こうなりますよというのを厳しい目で見て、その上に立って、今からの財政運営を反映していこうということが私どもにとっては大きな、その10年の後の大きな役目というか、そのためにやる話です。先ほど部長が言ったとおりであります。

そこで、今言われましたように、じゃあこのままいっただけで赤字になってしまうじゃないかと、赤字基調でずっと、そして10年先はいいとして、20年、30年たったらどうもならんことなるんじゃないかという話ですけれども、そこで、私も今、いろんな形で、今言われますように、恐らく福祉関係の予算、それからいわゆる総合戦略に基づくこの朝倉市の人口減少に歯どめをかけるための予算というのは今から出てくるだろうと思ってます。それにかわるもの、どうしていくかということです、問題は。

これについては、御存じのように今、既にやっていますけれども、まず1つには、朝倉市、1市2町が合併しているんな施設があります。実はこれをやはりスクラップ・アンド・ビルドじゃないですけども、いわゆる長寿命化と、いわゆる必要ないものをだんだん減らしていく、なくしていく、崩していく、そのことによっていわゆるそういったものの管理経費というものを抑えていくというのが1つあります。

それともう1つは、いわゆる市役所の仕事、これは今でも、今、四百八十何名か、職員、合併当時と比べ100名以上減ってますけど、これは正直申しまして、今から定数、職員の定数を減らすというのは乾いたタオルを絞るような話なんです。そういった中で、じゃあどうするのかというと、必ずしも市役所の職員がやらなきゃならん仕事なのかというのをもう一遍見直して、アウトソーシング、そういったこともやっていかなきゃならんだろうし。

それと、さっき言った施設の中には、今、議論になっております朝倉庁舎、それから杷木庁舎、これがもし、今は朝倉庁舎、2階まで使ってます、朝倉庁舎は1階です。ですから、これをどうか、少なくともあれはまだ20年、30年使える施設ですよ。これをどう効果的に、あるときには、これによってある一定、収入が上がるような形も含めて考えてやっていくかということを実際に考えていかならんし、今、そのことにも取り組んでます。

そのために1つには、それがメインじゃないんですけど、そのために例えば朝倉庁舎、あそこは今、2階も使ってます。2階まで使って、1階だけ支所として使う分についてはいろんな方法がありそうなんです、正直申し上げて。そして2階、3階を貸すなりするなり。しかし、2階まで使うと、これは非常に難しいという問題もあるんで、そういったこと。

そういったことを一つ一つやりながら、今度はいかに支出を抑えていくか、必要などこに使うために。そういう形をやりながら、やはり最終的には今、今回の財政の見通しでは10年後、36年度、ああいう形になってますけれども、これを少しでも赤字幅が減るように、あるいは赤字にならんでいいようにという努力をいろんな方法を使ってやっていかなきゃならん。これが私どもの今の大きな仕事の1つだろうというふうに考えてますんで、そういう形で今後取り組みをさせていただきたいと思えます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 今、市長のほうから具体的な施策が幾つかお聞きすることができました。新たな予算が出るのではないかとか、それから市庁舎のほうの有効活用をして、新たな予算を捻出する、それから既存施設のスクラップ・アンド・ビルド、それから業務のアウトソーシング、こういったものが出ました。こういったものが私、実は聞きたかったと思っておりまして、こういったものがあるんであれば安心していいんだなというふうに思っております。

あともう少し、お聞きしたいんですけども、あるべき姿、朝倉市はこうあるべきだという姿。本当はお金が潤沢であって、それがいいんでしょうけども、今のところでは非常に財政的に厳しいから、いろいろこれから知恵を絞っていかないといけない。だからギャップがあるわけですね、あるべき姿と現状で。そのギャップを埋めていかないといけない。そういった中で、市長がおっしゃるようにスクラップ・アンド・ビルドとか、それからアウトソーシングとかをやっていくと。そういった中で、やはり朝倉市の課題は何なんだろうと。やはり課題を明確化して、それを克服していくということが私は必要じゃないかなというふうに思っております。

そういった中で、済みません、御指名で副市長、朝倉市の課題、あるべき姿、朝倉市のあるべき姿でも結構です、そういったのは副市長は事務方のトップとしてどのようにお考えか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 先ほど中島議員御指摘のように、来るべき、既にもう進行しておりますけども、超高齢化社会、そして少子化といったことが現状これから進んでいく。これは避けられない現状だと思っております。

それに対する課題ということでございますけれども、これは今、パブリックコメント中でございますけども、総合戦略の中に朝倉市の今後の課題ということで、これは5点、全部で挙げております。これに沿ってということになってしまいますけれども、1つは、やはり地域で暮らしていくために欠かせない働く場、雇用の場、この創出がまず1点あると思えます。

それから2点目でございますけども、人口問題につきましては自然減と社会減ということがありますけども、1つは社会減を緩和していくことということがあります。



それから3点目でございますけども、今度は自然減の対策でございます。これは晩婚化、未婚化ということもございますので、まず出生数、その数そのもの、それから出生率、これを希望をかなえる出生率まで上げていきたいということでございます。

それから4点目でございますけども、今まで以上に安心・安全に暮らせる地域づくり、環境づくりということが挙げられるかと思えます。

それから5点目としまして、これもいつも言われておることでございますけども、なかなか朝倉にはすばらしい地域資源、歴史があるのに、なかなかそれが十分発信されていないということがありますので、それをあらゆるツールを使って全力で市民の皆さん、そして市外の皆さんにも発信をしていくということが大きな課題であるというふうに認識をしています。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 今、副市長のほうから5つの課題が出ました。これがおっしゃるとおり朝倉市の課題だと思いますので、これをやはりバランスよく経営資源をうまく配分しながら、やはりクリアしていかないと、朝倉市の未来はないのかなというふうに思っております。そういった中で、私はここで申し上げたいのは下流老人という言葉を出しました。私たちは新しい長生きのリスクという言葉はちょっとおかしいのかもしれませんが、そういったのに直面して、これはひょっとしたら社会的なリスクになるのかもしれないというふうに思っております。

そして、景気もこれから、オリンピックに向けてよくなるというふうに思っておりますけども、原油価格の急激な下落であったりとか、株価の下落であったりとか、これからのようになっていくかわからないような局面になってまいりました。非常にどうなっていくんだろうというふうに心配しております。そういった中で、やはりこれからどうなっていくかということ複眼的に考えて、こうなるだろうけども、ひょっとしたらこうなるかもしれないと、そういう複眼的な視野を持ってやっていくのが、私はこれから求められていくのではないかなというふうに思っております。

そういった意味で、財政の面につきましては、私はやはり慎重であってほしいというふうに思っております。今、私はいろいろおどかさようなこと申し上げましたけども、新しい不安要因とかいうものも出てきましたし、ひょっとしたら新しい事業なんかも出てくるかもしれません。私は前から甘木の、甘木町の課題である、322のクランクのところとか、ああいったのが解消できたらいいなというふうなふうに思っております。そういったもののチャンスが回ってくるかもしれません。そういったときに、不測の事態が起きたとき、新しい事業が来たとき、そのときにやはり先立つものはお金で、お金がないと身動きがとれないと思っておりますので、やはり財政運営というのは慎重に慎重にやっていただきたいというふうに思っております。

部長、もう一言、何かいただけましたらお願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 言われるように、まだ目に見えない今後の財政需要がたくさんございます。今言われるようなクランクの問題も1つでございまして、そういうのを私ども想定した中では、この財政の見通しでは地域振興基金というのを別でまた持っておりまして、その中でいろんな今後の大型事業には対応することをまず考えております。当然、国の補助金とか県の補助金をできるだけいただくというのは当然でございますが、そういう有利な財源以外にも自主財源としてはそういうもので将来のことには考えているところでございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） そうしましたらば、財政見通しの質問から次の質問に移りたいと思います。新庁舎建設についてを質問させていただきます。

これも4人の議員さんたちが大概質問されてしまいましたので重複するかもしれませんが、日にちもかわりまして2日目ということでお許しをいただきたいというふうに思っております。

まずお尋ねしたいのは、どうしても大型事業ですので財政の問題が出てまいります。そういった中で、単純に平米の50万円という単価を出されて、これをもとに計算がなされます。私は直観的に50万円って高いんじゃないかなと、そういうふうに思っております。

先ほどの話とちょっと重複するんですけど、つくりたいんだったらもっと安く出せばいいのって、40万円ぐらいで出せばいいのにとか、そんなことも思うんですけど、この50万円という金額は本当に妥当なんでしょうか。もうある程度、ここにもうこういった具体的なイメージ図なんかもできてますから、もうそろそろ50万円という数字が妥当か妥当ではないかというのは明らかになるんじゃないかなと思ってるんですが、いかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 確かに50万円というのは少し高目だろうというふうに思っております。国のほうが計画の中で公共施設整備計画ということで算定しなさいという形でしております。そのときの一般的な庁舎の単価は約40万円程度でございます。私どもはまだこの庁舎を建てる時期が、まだ3年先ですか、ぐらいになりますので、これを計画したときからいろんなオリンピックのもの関係、それから震災等で資材が大分上がってきたとか、そういうことを想定しまして若干ですが高目という形で50万円、少な目にして高くなるよりも、高くして安くなったほうがいいじゃないかなという考えもございました。そういう形で少しは高目の金額を設定しております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 確かに高目に言って安くなる分はいいだろうと、その反対は困るけれどもということだと思えます。ただ、私たちは議会のほうでもやはり財政のことは大

変心配しております、こんなにお金をかけて大丈夫だろうかとかいうように心配をいたしました。そういった中で、この50万円という金額がやはり基礎になっておりますので、40万円だとまた金額が全然変わってまいりますので、そこら辺のところはどうなのかな、ただ、かた目に見てるということでございました。

私もオリンピックがございまして、建築資材が高騰したりするようなことは容易に予想はできます。ただ、ひょっとしたら今の時代の流れでいくと原油安とか、今、資源安になっております。いろいろ景気が中国が悪くなったりとか、今、アメリカは6年間、ずっと景気が上がってきてるんです、ずっと6年間、景気がよかったんですけども、もうさすがに6年もよかったら、これから悪くなるだろうと、そう言ったエコノミストもいます。そうすると、アメリカがくしゃみをすれば日本は風邪を引きますので、ひょっとしたら景気が物すごく悪くなって、ちょっと極端な言い方なのかもしれませんが、大型事業を控えてくるような、そういったところも出てくるんじゃないかと、要するにできなくなるようなところも出てくるんじゃないかというような意見もあります。

そういった中で、私はこの50万円のことにつきましては、40万円ぐらいが妥当なところだけれども、かた目に見て50万円というような形で理解をさせていただきます。

そうしましたら、今度は市庁舎の建設の中で、この中でいろいろ新庁舎の設計の方針が、施設の計画が出ておまして、そういった中で、市民会議の意見というのも私は大変重要視されたのではないかなと思っております。市民会議の議論というのは、執行部のほうではどのようなウエートといいますか、重みを持っていらっしゃったのか、そこら辺を明らかにしていただければと思っております。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 市民会議に対しましては、市執行部としてはこういう考え方で行いたいという形で、これは集中型、分散型の話でございますけど、そちらの話でしました。そうしましたところ、ほとんどの方が集中型でいいという形の意見がありまして、私どもは市民会議のところは、意見というのは非常に重要なものであるという位置づけで、お話、参考にさせていただいております。

ただ、これが必ず市民会議が仮に、今回、朝倉市の執行部と同じ考え方になりましたが、仮にならなくても市長の考え方としては従わない場合もあったかもしれません。そこは必ず従うものではございませんということは申し上げたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） そしたら済みません、次のことをお尋ねいたします。合併協定書を尊重するということがございました。合併協定書はやはり合併時に協定を結んだ非常に重たいものなんですけども、ただ一方で、10年前の協定だから時代は当然変わってるよと、そういった考え方もできるかというふうに思っております。君子は豹変すといいます。間違ったことを直ちに直すと、こういったこともやはりマネジメントしていく上では必要で

はないかなというふうに思います。

ただ、森田市長は真実一路でしょうから、それをお守りになったんだと思っておりませんが、その合併協定書の考え方といいますか、市長はどのように合併協定書についてお考えになってたか、お尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 合併協定書の中に本庁集中型で行うというのが出てます。これにつきましては、やはり当時、合併当時ですけど、大変苦勞されて合併までこぎつけて、その中で将来の朝倉市の行政のあり方というものの1つとして、やはり集中型という選択をされたということです。これはやっぱり重いもんだろうと思います。当時、この中には当時、市議会議員の方もいらっしやっただろうし、合併の協議会に委員として参加された人もいらっしやるといふふうに聞いてます。そういった方がやっぱり議論されて、その結論を導いたということ。この重さというのは、必ずやっぱり大事にしていかなきゃいけない。

ただしですよ、ただし、だからといって何でもかんでもそのとおりの考え方でもございません。じゃあもしかすると、例えばあそこに教育委員会がピーポートにございます。やはり本来の集中型というなら、新しい庁舎に全部入れるのが集中型だろうと思うんです。しかし、私の考えでは、教育委員会はそのままにしとこうと。ある意味じゃ分散型ともとられるような方法を考へてるわけです。

ですから、当時の10年前のそれぞれの皆さん方、先輩の皆さん方がかんかんがくがくした形の中で結論を出された、そのことの大事さ、重さというのは十分私自身、認識しております。けれども、だからといって10年たった今日、それをそのままという形で今回の集中型というのをお願いしているということではないということでもありますんで、そこらあたりは御理解いただきたいなというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 尊重はするけれども、そのままではなくて、それなりに市長の中でそしゃくをされて尊重したと、そういうふうに受けとめました。

そういった中で、先ほど市役所の組織のあり方が集中型であるか、分散型であるかと、こういった議論は議会の中でも行われました。その中で、分散型の議論を主張されてる方の意見の中で、やはり全ての施設がみんな西へ西へ行ってしまうと、そういった危機感といいますか、自分の地域には何もなくなってしまうというような、非常にそういった心配が私は強いんだなというのを感じました。

そういった意味で、朝倉市は今度10年を迎えるんですけども、一体感の醸成というのがまだまだ私はできてないのではないかなというふうに思っております。これについては、一体感の醸成、これについてお尋ねします。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 一体感の醸成の問題については、私が6年前、市長に就任した当

時のことを考えれば、随分朝倉市として一体感というのは当時よりも上がってきたというふうに思っています。

ただ、今回の庁舎の問題で、いわゆる現在、朝倉支所にあります農林商工部をこちらのほうに持ってくるということについて、遠くなるとか、やっぱりそういう心配されてる方、確かにいらっしゃいます。それは杷木にお住まいの方、朝倉にお住まいの方、それぞれ考え方あるだろうと思います。

しかし、その確かにそういう考え方、あるかもしれませんけれども、この前も申し上げましたように、いわゆる朝倉支所と杷木支所が窓口として残ります。ですから、特にこれは農林商工部の事務だけじゃございませんけれども、ほかの事務も含めて、いわゆる今の朝倉支所、杷木支所でいろんな形で、そこに本庁まで来なくて、特に農林商工部の関係、証明書の発行ですとか、そういったものについてできるものを朝倉支所で、杷木支所で窓口で発行ができると。極力、朝倉、杷木の方々が本庁まで来なくても、通常のものはそのでいろんな手続きができるというふうな形を今から、今、既にいろんな形で庁内で検討していますので、その中でどれからできるかということを考えて、極力そういう形に持って行って、不便を感じられるのかもしれないけれども、感じ方が少しでも和らぐように、そしていきたいと思っておりますので、そういうことで取り組みをさせていただきたいというふうに思っています。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） やはり朝倉の市民の皆様が住んでるところによって不公平感とか、それとか心配事がなくなりますように、時間をかけて、まだまだ一体感の醸成には努力が必要なのかなというふうに思っておりますので、ぜひとも大変だとは思いますが頑張ってくださいというふうに思います。

では次に、歴史資料館についてお尋ねをしたいんですが、歴史資料館の場所を買うか買わないかとか、そういったのも議会の中で大分もんだんですけれども、私は歴史資料館、結局そのまま今、残るような形で、庭を歩いていいとか、壁がひよっとしたらとれるとか、そういうことでいい方向に進んでるなというふうに感じてるんですが、この歴史資料館というのは未来永劫、あそこにずっとあるわけでもないでしょうし、これから当然、老朽化が進んでリフォームとかも行われると思っております。そういったのは1つの節目になるのかなというふうに私は思っているんですが、歴史資料館は今後どれくらいのタイミングで、どういった改修とか、どういったことを想定してあるかと言ったらちょっと県の施設ですから言いづらいと思うんですけれども、議会の場で明らかにできる部分だけで結構ですので、お知らせいただければと思います。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 甘木歴史資料館につきましては、皆様、御存じのように県有の施設でございます。先ほどおっしゃいましたように、何十年後先、どうなるかというのは

なかなかちょっと私どもでは言いがたいところはございますけれども、当然ながら県有資産でございますので、もう築数十年たっております、必要な改修であるとか、あるいはひょっとしたら建てかえということもございますかもしれませんが、それはあくまで県の責任においてなされるべきだというふうに考えてるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 副市長のほうから県の責任においてなされるべきだと、私もそういうふうに思っております。ただ、それは1つの、そのとき朝倉市にとってやはり節目になるのかなど。それもチャンスと捉えて、いいように、朝倉市の施設とマッチしたらいいなというふうに私は思っております。

そういった中で、議会の中でいろいろこの市庁舎のことは話し合ってまいりました。そして、そのたびに市長のお言葉とかも聞かせていただきまして、多分、市長もかなり気持ちいろいろ揺れ動かれたのかなというふうに思っております。

そういった中で、断片的には私は市長はこういうふうに考えていったんだなというのはわかるんですけども、市長、この議会の場を借りまして、市長のお考えの経緯みたいなのを、経緯です、最初はこう思ってたけども、こうこうこう、こうやって、こういうふうに結論に至ったと、そういった経緯を明らかにしていただけませんか。可能であればお願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） たしか市庁舎の整備という形で初めて私は申し上げさせて、最初、申し上げさせていただいたんだろうと思いますが、26年だったと思います、この話を出したのが。それから今日、その当時は、当初はいろんな考え方がございました。出したように、この場所に、まだその当時は耐震診断はまだしてなかったと思うんです。してなかったんで、耐震強度がどのくらいあるかわかりません。ですから、それを見た上で耐震補強をして、足りない分は横に、今の別館のあたりに建て増ししてつくってもいいなという考え方もございました。

また、別の場所に新しく建てかえるということも1つの選択肢ではございました。

ただ、ある程度、これは市民会議、それから議会の皆さん方、意見を聞く中で、いわゆるピーポート周辺という形で意見がそういう収れんをしてまいりました。私もピーポート周辺ですと、いわゆるピーポートの連動性、あるいはあそこに農協ですとか、警察だとかあります。ですから、そういう面でも非常に場所としてはいいというふうに思っていました。

その後、問題は、一番今、問題になっております本所・支所の問題。これははっきり申し上げまして、私は基本的にやっぱり集中型がいいと、これは最初からそういう考え方を持っていました。ただ、財政の問題が私もいろいろひっかかってまいりました。ですから、あるときには、これはここで言うと、いろいろまたあれがあるかもしれませんが、これは内部ですよ、内部の中で、いわゆる設計を集中型でやっとして、一部を抜かして後

から建てるということはできんかということも話もしたことがあります。しかし、やはりよく考えてみますと、財政的にはさっき言いましたように10年計画というのは、今のさっきの赤字になりますけれども、いろんな形でできます。だったら、そうやりますと、じゃあその10年、建てた後、財政的にそれだけの7億円、8億円かかるやつを、これ庁舎ですから補助はございませんから、できるだけ朝倉市が余裕ができるのかということ考えた場合、それだったらやっぱり、多少きついかもしれんけれども、今、特例債とか有利な起債ができるうちに本庁方式にやっと思ったほうが将来のためになるんじゃないかという最終的な判断になったということであります。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 財政的に少々きつくてもやれるときにやっくと、将来のことははっきりはわからないからということだと思います。わかりました。

そうしましたら、今、市長のほうからございましたように集中型がいいということで、先ほどアウトソーシングの話なんかも出ましたけど、広い朝倉市ですので、やっぱり行政というのは効率的にやっていかないといけないというふうに思ってます。限られた職員の数で業務を、多様化する業務をやっていくためには効率的な運営というのが必要だと思っております。

そういった意味で、これも堀尾議員がひょっとしたら聞かれた質問かもしれませんが、集中型のメリットといますか、それについてはどのようにお考えかをお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） まず集中型で一番いいのは、全ての主要な機関が1カ所にありますので、今でしたら、これは農林ですから朝倉まで行ってくださいと言うとか、逆に朝倉に農林のことで聞かれて、これは市道ですから建設課に、本庁に行ってくださいとか、そういうたらい回しといますか、そういうことがなくなるということがまず第1点でございます。

それから組織、行政管理上としましては、市長から見た部課の統制というのが、同じ職場におればすぐに話等を聞いたりとか、いろんな意思伝達、そういうものが伝わる。あとはもう1点は、今度は職員間が連携がとれやすくなるということがございます。お互い1つの庁舎におれば、今で言えば地下1階から5階まででございますけど、よその職場はどんなふうに忙しいのかとか、そういう状況がわかりますので、いろんな応援体制ですとか、いろんな相互の組織間の融合ができるというような、そういうメリットがあらうと思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 市民の利便性、それからコンプライアンスであったりとか、管理面でも意思疎通がしやすい、それから組織としての意識統一が図りやすい、それから職員

間のコミュニケーションがとりやすいと、こういうことがメリットというふうにとりました。

では、そろそろ時間がなくなってきましたので、済みません、最後にもう1つだけ質問させてください。職員数なんですけれども、やはり人口減少の中で、職員数は当然減らすべきだというような御意見もあります。そういった市民の意見もあります。

そういった中で、職員数というのが効率的にやっていくためには、やっぱり減ったほうが効率的だとは思いますが、アウトソーシングをすればもちろん職員の方もある意味、要らなくなりますので、そういった意味で職員数はこれからは横ばいなんですか、それとも減っていくというふうにお考えなんですか、そこだけお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 職員は合併をしまして約10年たっておりまして、合併の効果による減は一応現段階ではとまった状態だと思っております。

あとは仕事の量でございますけど、今、暫定的にいろんな部署がございます、例えば朝農の対策をしてる係がございますが、そういうところは事業が完成すればなくなる、市街地活性、甘木町の市街地のところもそうでございますが、そういうもので、事業がなくなれば人が減ることがまずございまして、一般的な業務は横ばい、それとあとは新しい事業がなれば、現状の人数ではとても対応できませんので、そこは増の要因も今後はあるだろうというふうに思ってるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 新しい業務というのは、具体的にはどういったものを指すんでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 今、抱えてます大きな事業としましては庁舎の問題、それから朝農の問題が、これは28年度からは体育館等になれば基本設計、実施設計が始まりまして、実際の工事になってきます。そうしますと、今の人数では十分ではないだろうということも、まず一番身近な問題はこの2点が大きな問題だろうと思います。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） では、新市庁舎の建設につきましては、これで質問を終わりたいと思います。

では最後に、公共交通による地域再生、時間が少なくなりましたけれども、残された時間の中で質問させていただきます。

市長の施政方針の中で、甘木鉄道で小郡、基山駅で西鉄またJRに乗りかえることで、福岡方面、久留米方面への通勤、通学のための重要な交通手段となっております、甘木鉄道は。この路線は旧国鉄時代の赤字路線として廃止する予定であったものを、当時の関係者の努力で第三セクターとして残されたものであります。基山駅でJRに乗りかえること



なく、そのまま博多駅まで行くことができるとなれば、甘木鉄道の利用がふえ、定住促進にもつながります。この博多駅直通電車の可能性を検討いたしますということが書いてあります。本当に久しぶりに胸がわくわくするような夢のある話だなというふうに思いました。

そういった中で、この直通電車なんですけど、これについてお尋ねいたします。まず、この直通電車をするに当たりまして、まずこれはどういった事業なんですか、簡単に御説明いただければと思っております。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） これはあくまでJRの事業でございます。JRの電車の中に蓄電車という部類の電車がございまして、JRの線は電化されてる区間と、そうでない区間がありまして、電化されてるときに電気をバッテリーにためまして、それから電化されてないところはそこでモーターで動くと、バッテリーのモーター、ディーゼル車じゃないということでございます、そういうものの導入の計画があるようございまして、そうしますと朝倉市の場合でしたら甘木の甘鉄は電化されておられませんので、そのバッテリーで動くことが可能ということで、仮にそうしたら朝倉市も非常に有利じゃないかということの情報をつかみましたものですから、こういう計画をしたとございまして、非常に有効とは思いますが、いろいろまだ問題点もあろうかと思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） もちろん実現するためにはいろいろハードルがありまして、これから検討していくんだと思います。ただ、私は何かもうわくわくしてるものですから、早くできないかななんて思ってるんですけど、これ、イメージ的には10年ぐらい先にできるような、そういったイメージぐらいでいいんでしょうか。そのどれくらい先、3年ぐらいなのか、5年ぐらいなのか、それとも10年なんだろうかと思うんですけど、どれくらいをお考えで検討に入っていくのか、まずそれをお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 検討は28年度中に国の加速化交付金で手を挙げようというふうに今、準備をしてるところでございまして、その調査結果は28年に出てきます。それをもとに採算性、いろんな効果があるとすればJRのほうに働きかけていきまして、早いうちにしたいと思いますが、10年先ではないと思います、もっと早い時期に私どもとしてはしたいと思いますが、相手がJRさんでございますので、私どもの一存ではなかなかできないという状況でございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 私、何か、これちょっと間違いかもしれませんが、蓄電車を何かJRが何か100台準備して、各第三セクターのほうに何か声をかけてるとかというようなニュースも聞いたような気がするものですから、違いますかね、済みません、間違っていたら

ごめんなさい。そういった意味ではJRのほうも協力していただけるんだからという淡い期待を持ってるんですけども。

そういった中で、もしこれが導入されたら、甘木の甘鉄の甘木駅に乗ったら、そのまま博多に行けるという非常に便利になると思うんですが、市としてどういった効果を、メリットといいますか、波及効果を考えていらっしゃいますか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 雇用の場というのは、今までは朝倉市内に企業を誘致するという形で考えておりました。これが蓄電車で甘鉄が博多駅まで乗り継ぎするという事になれば、今でもそうでございますが、天神、博多の距離が朝倉市から近くなります、時間的に近くなるということでございます。そうしますと通勤、通う方といいますか、そういう方で朝倉市に定住といいますか、家を建てて通う方がふえるということになれば、定住増の効果を私どもは狙ってるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） おっしゃるとおりに、甘木からそうやって博多まで行けるのであれば、甘木に家買ってもいいなという方は多分ふえて、人口もふえるのではないかとこのように想像されます。

そういった中で、考えてみますと、甘鉄のイメージでいくと1両か2両です。その電車がずっと基山に行って、鹿児島本線を2両で走るんだらうかと、そういったことを思うんですが、当然、実現していくためのハードルといいますか、ハード面とソフト面のハードルといいますか、調整事項があると思っておりますけれども、そういったものはどういった問題があるのか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 総務部長。

○総務部長（堀内善文君） 甘鉄の電車がJR線を走れるかなという、私はそれは疑問があります。蓄電車ですので、新しい車体をJRさんが用意されて、それが逆に甘鉄側に乗り込んでくるというようなイメージかなというふうに思っております。

そしてJRの線路は1両とか2両が走るようなものではございません、何両もつながっておりますが、朝倉市の甘鉄のところにそういう何両もつながるのが来るのかなというの、それも疑問でございます、場合によっては基山で切り離すとか、そういうこともあるのかなということも考えております。そのあたりはまだ今後の調査になろうと思っております。

それと一番大きいのは、基山線のレールが以前はJRとつながっておりました、鹿児島本線とつながっておりましたが、今は遮断されてる状態でございますので、ここを接続する工事が出てくるだろうと思っております。

あといろんな電車の運行するシステムの影響でありますとか、JRの運転手が甘鉄の線路内を運転するのか、運転手が交代するとか、そのときの経費はどうなるのか、いろんな問題はまだまだあるだろうと思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 私、JR乗るときは西鉄のニモカでよく乗ってるんですけども、甘木の太刀洗駅とかはニモカとかは多分使えないですよ、今、現金でしか払えてませんので、こういった部分についてもひょっとしたら、朝倉市さん、協力するから、JRのほうが車両出すから、改札の分は朝倉市で用意してね、大刀洗町は大刀洗の分は大刀洗で用意してねとか、そういったふうになるかもしれません。そしたら先ほど言いましたように、やはりこれは新しい事業ですので、先ほど言ったように、前向きなこういった新しい事業は、ぜひとも使えるその財源というのは残しとっていただきたいというふうに思っております。

私は、これは物すごく朝倉市にとって元気が出るカンフル剤になる話だと思っております。ぜひとも実現していただきたいと思っております。市長、意気込みをお聞かせください。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 本当に今回のいわゆる国の加速化交付金を使って、この可能性調査ということで28年度、やるわけですけども、これにつきましては朝倉市だけじゃなくて筑前町、それから大刀洗町、小郡市、それから基山、それから東峰村も含めて、各自治体さんの御了解というか、それも賛同を得て、じゃあもちろん中心になって朝倉市がやりますけれども、一緒にやろうということでしております。ですから、私もぜひこれが実現するように努力をしまいたいというふうに思っています。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） ぜひとも未来の朝倉のために御尽力いただきますようお願いいたします。

次に、済みません、4番の甘木鉄道の利用増加策についてということで質問させていただきます。

私はニュースで千葉県銚子市の銚子電鉄というところが、駅の命名権を売買いたしまして、笠上黒生と、黒生というのは黒に生えるという字なんですけども、このそういった駅がありましたのを、それが「髪の毛黒生」と、髪の毛が黒く生えるというネーミングライツで名前を変えたら、乗客が40%ふえたというニュースを見ました。要するに頭の毛が、私もちょっと薄くなったんですけども、頭の毛が薄くなった男の人が聖地として切符を買ったりとか、グッズが売れたりとか、記念撮影をしたりとか、そういったのを見ました。鉄道事業者に聞きますと、通勤電車だけではなくて、昼間、観光客が来るような、そういった仕掛けというの、昼間、いかに空で電車を走らせないか、これも非常に鉄道事業者としては頭が痛い話だということを知ったことがございます。

そういった意味で、これは私の勝手なあれなんですけども、朝倉市の持ってる分だけで結構ですので、ネーミングライツ、命名権を、これ銚子の分は80万円から100万円ぐらい

の値段で売ったそうなんですけれども、そういったような売るとか、そういったことは可能でしょうか、それをお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（森田和枝君） 命名権についてはただいまのところ、まだ売るとか、そういうところの計画はございません。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） 確かにはないと思うんですけど、可能性もないし、何かじゃあそういった利用者増の新たな取り組み、あれ、カップ酒電車ですかね、そういったのをちょっと見させていただきましたが、そういったのというのは何かじゃあやっておりますでしょうか。

○議長（浅尾静二君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（森田和枝君） 現在、今行われてる甘木鉄道の行事なんですけども、移動手段以外の鉄道乗車の目的としまして、沿線近くの散歩をしますウオーキングイベントとか、七夕列車、先ほど言われましたカップ列車などを鉄道車内の新たな利用手段として鉄道を使ったサービスを取り組んでおります。

甘木鉄道は4月で30周年を迎えます。現在、今、年間130万人を超える利用者がいらっしやいまして、これを支援していただいている方々たちに感謝を込めまして企画やイベントをつくろうと思っております。

また、これにあわせて、今度、キリンビール会社のほうが50周年を迎えます。50周年を迎えるとともに、各種イベントとタイアップをしながら、鉄道を深めまして地域全体の魅力を向上、また利用促進を図っていきたいと思っております。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君） もう時間がなくなりましたので、我々議員は選挙によって選ばれて投票をしてもらって、この議場に來ております。人口といたり定住者であったりというのは足による投票だという考え方があります。足を運ぶことによって、その人が投票してるんだと、その地域によって。ですから、朝倉市もいろんな人が訪れていただいて支持されるような、そういった町になってくれれば、私も大変喜ばしいことだと思っております。大変お忙しいと思えますけれども、担当課のほうも頑張ってくださいますようお願いいたします。

質問がちょっと中途半端になってしまいまして申しわけございませんでした。これで質問を終わります。

○議長（浅尾静二君） 10番中島秀樹議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後3時30分休憩